



## つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 352号 2011.4.26 発行 社会政策研究所

明るい電車ネタです。そして、新しい取り組みや施設のオープンのニュースです。【kobi】

### 「全国公開へ向けて出発！」 「阪急電車」ヒット祈願



大阪日日新聞 2011年4月24日  
「発車します」と（左から）谷村、宮本、中谷、戸田、南のみなさん＝23日午後、兵庫県西宮市

「全国公開へ向けて出発！」。地元関西でオールロケされた映画「阪急電車 片道15分の奇跡」（東宝配給）が23日から関西で先行公開され、出演者の中谷美紀さんらが、舞台になった阪急今津線の西宮北口駅ホームから特別列車に乗り込み、大ヒット祈願のデモンストレーションを行った。

ご当地映画とあって西宮にあるTOHOシネマズ西宮OSシアターの前売り券の売れ行きがぶっ

ちぎりの全国一で初日から超満員。中谷さんのほか宮本信子さん、南果歩さん、戸田恵梨香さん、谷村美月さんと三宅喜重監督、同沿線に住む原作者の有川浩さんらが同館で舞台あいさつを行った後、「この勢いを29日からの全国公開へつなげたい」と一同は快気炎。あいにくの雨だったが集まったファンに出演者たちは笑顔を振りまいていた。

### 御堂筋線に20年ぶりの新型車両

産経関西 2011年4月26日

大阪市交通局は25日、市営地下鉄御堂筋線に20年ぶりとなる新型車両「30000系」（10両1編成）＝イラスト＝を導入すると発表した。

今年12月から導入を始める。外観は、先頭部分に曲面ガラスを使用した丸みのあるデザインで、御堂筋線のラインカラーの赤を窓の上下に配した。

床を4センチ低くしてホームとの段差を縮め、バリアフリー化にも配慮。座席にはくぼみのあるバケットシートを採用し、担当者は「ゆったり座れます」。



### 大分駅南の「複合文化交流施設」 あす起工

大分合同新聞 2011年4月25日

大分市が進める大分駅周辺総合整備事業で、「情報文化新都心」ゾーンの核となる複合文

文化交流施設（仮称）の起工式が26日、同市金池南の現地である。文化、教育・情報、産業、福祉などの機能を併せ持ち、オープンは2013年7月の予定。県都・駅南地区に“新たな顔”を生み出す市の一大事業がスタートする。

複合文化交流施設は「人と文化と産業を育み、創造、発信する新都心拠点」を基本構想として、子どもや高齢者、障害者など多くの人の交流の場を目指す。



建物は地上4階、地下1階。床面積は延べ3万8400平方メートル。大半は公共部門で、商業施設などの民間部門は1500平方メートル。総事業費は15年間の維持管理費を含め約125億円となっている。

主な機能は▽文化 大ホール（収容人数1200人）と小ホール（同200人）▽教育・情報 市民図書館や、県内の大学のサテライトキャンパス▽産業 中小企業支援のためのセミナールーム、起業支援のためのインキュベーションルーム▽福祉・健康 総合社会福祉保健センター（高齢者交流センター、児童センター、母子福祉センター）と市社会福祉協議会事務所。

設計建設と維持管理については、民間のアイデアや活力などを生かすため、09年8月に公募型プロポーザル方式で事業者を選定。日本管財、前田建設工業、梅林建設など12社からなる「大分駅南コミュニティーサービス」と事業契約を結んだ。

市は都市計画マスタープランで、大分駅北側を商業業務都心、南側を情報文化都心と位置付け、駅南地区の区画整理事業を推進。さらにJR大分駅高架化事業で、鉄道やバス、タクシーなどの交通結節拠点を整備中。

久渡晃副市長は「停滞する市中心部に、にぎわいをもたらす核となる施設が着工する。市制施行100周年の記念すべき時期に、中心部だけでなく市全体を引っ張る施設になることが期待できる」と話している。

## 待望の障害者ケアホーム誕生 宇治田原むく福祉会 「地域で安心して暮らせる場」

洛南タイムス 2011年4月26日

社会福祉法人・宇治田原むく福祉会（小林昭次理事長）が、同町賛田船戸に建設を進めていた共同生活を行う町内初の「ケアホームむくの家・さくらの家」が完成し、23日に竣工式を開き、地域の中で安心して暮らせる待望の施設完成を喜び合った。

ケアホームは、食事や入浴などの介護や日常生活の支援を必要とする知的障害者・身体障害者が共同生活を行う施設。

知的・身体などの障害者が通う障害福祉サービスセンター「うじたわら」（中村祐子施設長）を運営する「むく福祉会」が、障害者が住み慣れた地域で暮らしながら自立した生活と自己実現ができることを願って建設。

場所は同サービスセンターの隣接地の用地に、鉄骨造り2階建ての男性棟（むくの家・入居定員10人）と同じく2階建ての女性棟（さくらの家・入居定員5人）の2棟を建てた。総事業費は約1億8000万円。昨年11月から着工していた。

サービスセンターでの式典には、府・町・むく福祉会・保護者・スタッフら関係者約70人が出席。

小林理事長は、ケアホーム建設・完成までの経緯を振り返るとともに近隣地域住民の理解に感謝とお礼の言葉を伝え「障害福祉サービスセンターうじたわらは、心機一転初心に戻り、健やかな心をはぐくんでいく場所として努力したい」と挨拶。

今事業を手掛けた（有）カタヤマ建築デザインと（株）ナカタへ感謝状が贈呈。続いて、山城北保健所の和田行雄所長と奥田光治町長、西谷信夫町議会議長の3人が来賓祝辞。

この後、入居する利用者 15 人を代表して萩原照幸さんは「38 年間家で生活してきました。お父さん、お母さんには、生まれた時から今日まで心配、苦勞を沢山かけてきたと思います。ほんとうにありがとう」「これからは、一緒に生活する仲間と協力し合って暮らして行きたい。ケアホームの生活に不安はありますが、自立した生活を暮らしたい。地域の中で安心して暮らせるケアホームの場が出来てほんとうに良かった。大事にしていきます」と喜びのあいさつ。

前身の無認可共同作業所当時から待ち望んできたケアホームの誕生に、保護者を代表した高野宏美家族会長は「いずれ親が亡くなった後、残された子どもたちが地域で安心して暮らせるケアホームを願い続けてきました。国、府、町の行政の温かい支援と地域の支援・協力をいただいたことに篤く感謝。素晴らしい施設の中で、障害者福祉の拠点として発展を」と、目から溢れ出しそうな涙をこらえながら挨拶。

最後はケアホーム前に会場を移し利用者・保護者代表者ら 6 人がテープカットして施設の完成を祝い、内覧会も。

男子棟の延床面積は約 345 平方メートル。1 階は浴室、機械浴室、車イス対応トイレ、和室、居間・食堂・2 つの居室など。2 階は談話コーナー、車イストイレ、8 つの居室など。

女子棟の延床面積は約 273 平方メートル。1 階は男女棟共用調理場、事務室、浴室、食堂、車イス対応トイレなど。2 階は 5 つの居室とトイレなど。

居室スペースは約 10 平方メートル。男女棟ともにエレベーター完備。生活支援員 5 人と世話人 3 人の体制でサポートする。24 時間ケア。短期入所（男女各 1 人）も受け入れる。5 月 1 日から入居開始。

#### 境港産イカのバーガー 障害者事業所が開発 山陰中央新聞 2011 年 4 月 26 日 29 日に発売する「夢みなとイカめしバーガー」＝境港市岬町、まつぼっくり事業所



ご当地バーガーの人気上昇をにらみ、境港市岬町の障害福祉サービス事業所・まつぼっくり事業所が、境港産のスルメイカをご飯で挟んだ「夢みなとイカめしバーガー」を開発した。販売面でタッグを組む夢みなとタワー（同市竹内団地）が、29 日から同タワー内で売り出す。障害者の仕事の確保や、やりがいの醸成につながる狙い。

同事業所は昨年 10 月、県特産の「大山どり」やナガイモを使った創作バーガーを手掛け、県内イベントに出店した。これを知った同タワーから「境港ならではの海鮮バーガーができないか」と打診され、開発に踏み切った。

家庭料理のイカご飯をヒントに、スルメイカをご飯に挟むことを考案。栄養士のボランティア協力を受けながら、ミンチ状にしたイカの臭みを香辛料、日本酒で消した上で、白髪ネギやしょうゆだれで味付けした。ご飯は、焼きおにぎり風にした。

同事業所を利用する障害者約 30 人は、イカをミンチにしたり、成形したりする作業に従事する。

同タワーは 1 個 400 円で販売し、5 日までに 500 個を売る目標。6 日以降は 4 階の喫茶店でも取り扱い、看板メニューの一つに入れる考えだ。

同事業所職員の足立博文さん（35）は「境港の食材で作りたいかった。企業がまねてくれるぐらいの名物にしたい」と期待を寄せる。

#### 被災学生の就活支援へ...無料バス、宿泊費も負担

読売新聞 2011 年 4 月 26 日

厚生労働省は、東日本大震災で被災した就職活動中の学生や内定を取り消された人たちを支援するため、東京や東北地方で同省が開く「被災学生支援就職面接会」の会場と被災地を無料で往復する“就活バス”と宿泊施設を無償で提供する方針を固めた。

同省は、面接会について第1次補正予算案に関連経費約1億円を計上しているが、自分や家族が被災し、経済的に困っている学生らは遠方の面接会場に赴くのが困難な場合もある。このため国がバスをチャーターし、最寄りのハローワークなどから無料送迎する。民間の宿泊施設も確保し提供する。

面接会の開催時期について、同省若年者雇用対策室は「被災者の生活状況が落ち着くまではまだ時間がかかるため、6月以降になるのでは」と話している。

## 被災障害者支援を - 権利確立へ署名活動

奈良新聞 2011年4月26日

### 被災障害者を支援する募金と障害者の権利を守る署名を呼び掛けるメンバー=25日、奈良市の近鉄奈良駅前

県内の障害者支援事業所の利用者や職員、家族らでつくる「きょうされん奈良支部」が25日、奈良市の近鉄奈良駅前前で東日本大震災で被災した障害者の支援活動を展開。同支部所属の19団体から約40人が参加し、通行中の市民や観光客に募金や署名を呼び掛けた。

障害のある人たちの地域生活を支援する全国組織「きょうされん」は他団体と連携して、被災地支援センターを立ち上げ、具体的な支援を展開

しており、同支部も参加している。

被災地の障害者はさまざまな困難に直面しているが、中でも深刻なのが「非常事態にそぐわない制度の壁」と同支部全国理事の小針康子さん。

行政機能が停滞している中、新たに福祉サービスの利用を希望する障害者が、あらかじめ障害者自立支援法の区分認定を受けていないという理由で排除されるなど、不合理な事例が数多く発生しているという。

署名は、廃止が決まっている自立支援法に変わる新法と改正が進む障害者基本法を国際ルールに沿い、障害者の権利を尊重した内容にすることを国会に求めるもの。小針さんは「障害者制度改革と被災障害者支援は車の両輪。障害者の権利を守る法律が実現してこそ支援施策が充実する」と話している。

署名は4月末まで実施。問い合わせはコミュニティーワークコッから、電話080(1424)9315。

被災障害者支援募金は郵便振替で随時受け付け。送金先は、きょうされん自然災害支援基金口、00100-7-86225。

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行